

病家須知一名病家意得草

卷一 目錄 ○題辭 ○提要 ○坐婆必研を合刻せし主意 ○養生の心得 ○飲食の節を制し
 俗に云ふ。睡寐の規則を定むるは。體容を呼吸を調和せんとす。補益及一切上部小迫塞と
 なるの病の體息を調ふ必治す。經驗あるは。行住坐臥小體息を調ふ。小兒の病も
 この意を用ひばあまは。心意を調ふ。久く藥を用ひ治らぬ病多し心の調ふ由あり。觀
 相師の色を論じし其旨同し。○瞋恚の心外絶すと喜怒の情安小動やと於より發る病の
 相。○夜臥の歌を誦し胸腹腰腹を撫摩及息を齊下す。簡易小を行はせ術を記。病狀
 愈ふ便せしむる并小圖(は)
 明命をその自然を委し益も
 を施す。諸候の諸君及臣下殿
 のしるを。紅毛醫學の世
 體をも心得て醫治をせし先
 毒の所(小中) ○劉元城
 もよみ。○曹炳夏の論を
 治し。○卷二 病
 瘡を屋の中居て小室を出たを。○病者の腕間の氣のあつた小書。○大病後後味。○
 とる睡む。○着病の細心を注ぐ。○飲食の分量を二便の便閉小を用治す。○父母の
 得る。○必死の病を看侍する心得あり。○祈禱を出家山伏小説。○多公益あり。
 誠の心を祈る神佛の感應あり。○陰慮する病を治すあり。

和書門	二四九七三	類
	六七函	
	一一架	
	八册	

内閣文庫	和書
二四九七三	類
六七函	
一一架	
八册	

内閣文庫	和	24973
冊數	8	(1)
函號	195	176

醫書四ノ三

